



Nissan Chemical
CORPORATION

未来のための、はじめてをつくる。

中期経営計画 「Vista2027 Stage II」

説明者 八木晋介(代表取締役 取締役社長)

2025年5月15日



Contents

01

Vista2027 Stage I 総括

P3

02

Vista2027 Stage II

P7

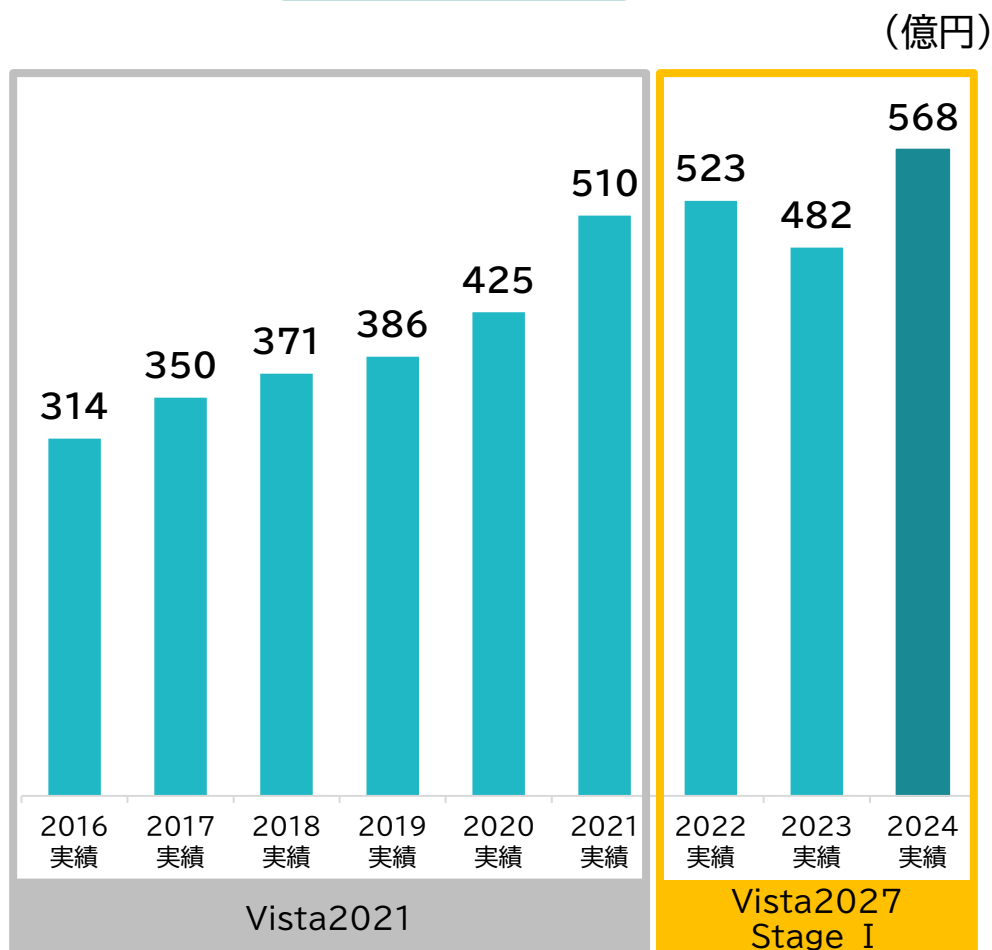
Vista2027 Stage I(2022-24年度) 総括 損益および経営指標

		2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 実績	2024年度 前年度比	2024年度 旧中計 (2022/5開示)
(億円)		①	②	③	④	⑤=④/③-1	⑥
収益性	売上高	2,080	2,281	2,267	2,514	+11%	2,550
	営業利益	510	523	482	568	+18%	585
	経常利益	537	558	516	580	+12%	595
	純利益	388	411	380	430	+13%	440
	EBITDA*1	612	633	620	712		
	売上高営業利益率	24.5%	22.9%	21.3%	22.6%		
	EPS(円/株)	271.88	291.36	272.82	313.26		
資本効率・ 財務健全性	ROE	19.2%	19.4%	17.1%	18.7%		Stage I 目標 20%以上
	自己資本比率	73.6%	73.1%	70.3%	70.5%		18%以上
	ネットD/Eレシオ*2	-0.06倍	-0.01倍	0.09倍	0.06倍		
株主 還元	配当性向	44.9%	56.3%	60.1%	55.5%		55%以上
	総還元性向	75.6%	78.0%	86.2%	82.0%		75%以上
為替レート(円/ドル)		112	136	145	153		全て達成

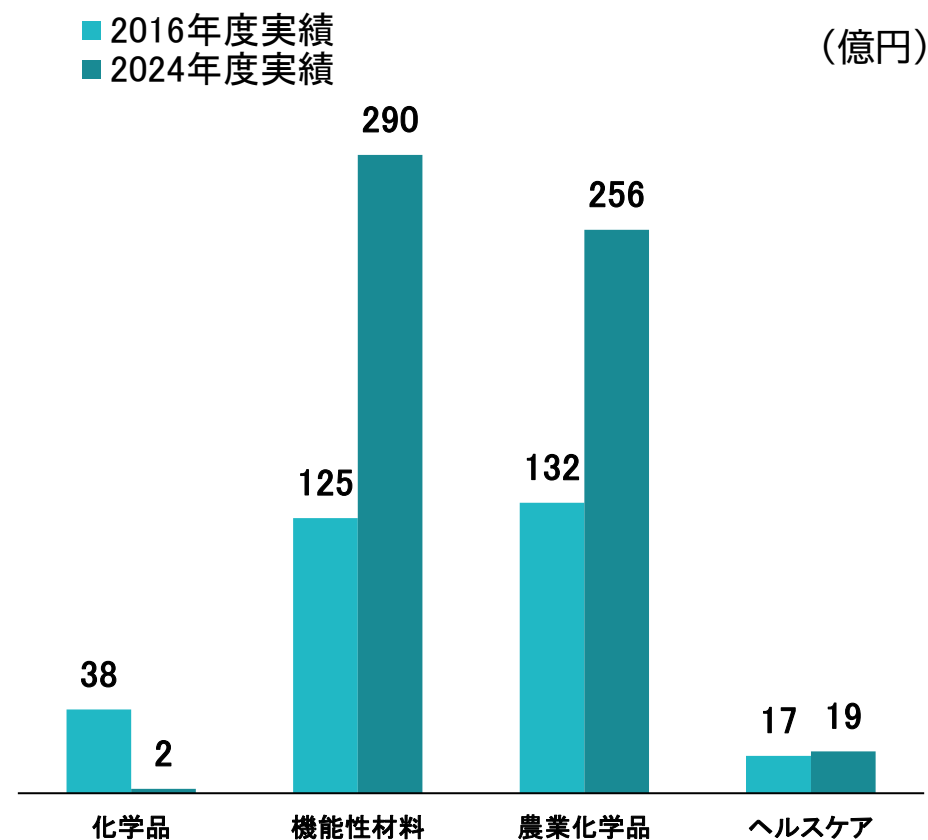
*1: EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 *2: ネットD/Eレシオ = (有利子負債 - 現預金) / 株主資本

営業利益は、毎年過去最高益を更新(2023年度を除く)
機能性材料、農業化学品が業績を牽引

営業利益推移



営業利益構成 2016年度 vs 2024年度



積極的な設備投資を実施、成長分野における製品の供給体制を強化

Nissan Bharat Rasayan PVT. LTD. 農薬原体工場

工場所在地	インド グジャラート州サイカ
事業内容	農薬原体の製造、販売
商業稼働	2022年度
投資額	60億円(概数)



NCK Co., Ltd. 半導体材料工場

工場所在地	韓国 忠清南道唐津市松山2産業団地
事業内容	半導体用材料の製造、販売
商業稼働	2024年度
投資額	90億円(概数)



Contents

01

Vista2027 Stage I 総括

P3

02

Vista2027 Stage II

P7

Vista2027 Stage II(2025-27年度)

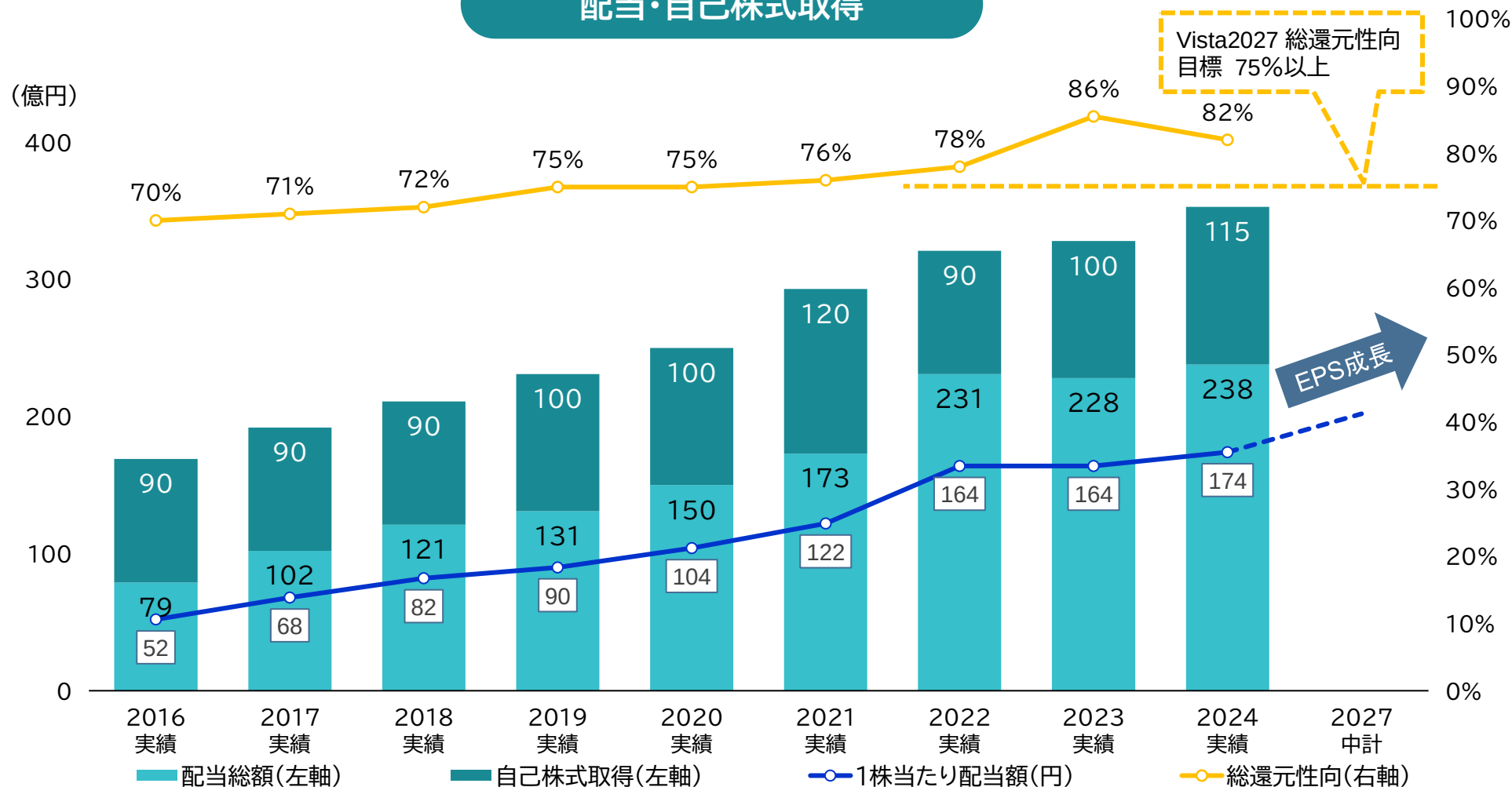
損益および経営指標

		2024年度 実績	2027年度 中計*1		2027年度 -2024年度	CAGR
(億円)		①	②		②-①	
収益性	売上高	2,514	2,930	2025-27年度 目標	+416	5%
	営業利益	568	650		+82	5%
	経常利益	580	655		+75	4%
	純利益	430	480		+50	4%
	EBITDA*2	712	834		+122	5%
	売上高営業利益率	22.6%	22.2%		-	-
	EPS(円/株)	313.26	366.28		53.02	5%
財務健全性・ 資本効率性	ROE	18.7%	18.5%	18%以上		
	自己資本比率	70.5%	71.9%			
	ネットD/Eレシオ*3	0.06倍	0.05倍			
株主 還元	配当性向	55.5%	55.0%	55%以上 75%以上		
	総還元性向	82.0%	75.0%			
為替レート(円/ドル)		153	140			

*1: 中計数値には将来の戦略投資(M&A)による影響は含まない。以下全てのページで同様。

配当性向55%以上、総還元性向75%以上
 安定的・継続的配当と機動的な自己株式取得により、積極的な株主還元を継続

配当・自己株式取得



経営計画スローガン

価値共創で未来に挑む企業へ

持続的な成長、安定収益の礎を築く

現有事業の利益拡大

成長分野の強化

- 半導体、農業化学品へ資源を集中投下
- 次世代材料・新剤の開発
 - ・半導体：実装材料、EUV材料など
 - ・農業化学品：バイオ農薬、新規動物薬など
- 戦略投資(M&A)の積極活用

A系製品の収益性改善

- 固定費の圧縮
(2024年度 減損計上済)
- コストダウンの継続実施
- 外部製造委託の活用
- 不採算製品の販売中止

2030年を見据えた 新製品の開発

- Go/Stopの迅速化
- ターゲット材料の明確化
- 戦略投資(M&A)の積極活用

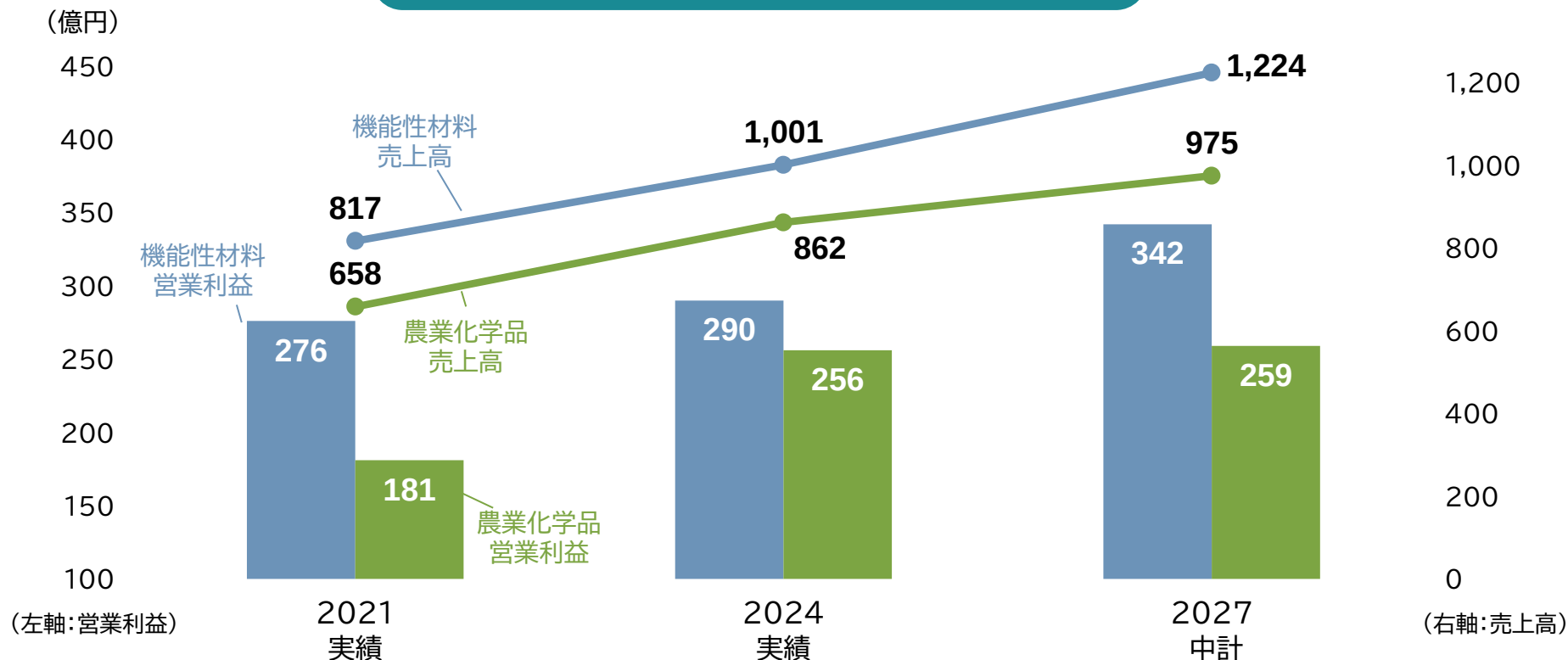
事業基盤の強化

- | | | |
|------------------|-------------|---------------------|
| ➤ 人材育成の強化 | ➤ デジタル基盤の拡充 | ➤ ガバナンス・コンプライアンスの強化 |
| ➤ 研究開発基盤および機能の拡充 | ➤ 知的財産の活用強化 | ➤ サステナビリティの向上 |

成長分野の強化

機能性材料は、半導体材料を中心に拡販 & 次世代材料の開発に注力
 農業化学品は、海外市場での販売エリア拡大 & 新剤、動物薬、バイオ農薬の開発を加速

機能性材料・農業化学品の売上高・営業利益*1



動物薬では、MAH社*2とのフルラネルの長期供給契約を延長
 新規動物用医薬品創出へ向けた共同研究開発を開始(2025/4/11リリース)

*1: 2025年度より新方式セグメント別営業利益

(DX費用および企画本部の一部費用について、旧方式では各セグメントに配賦していたが、新方式では各セグメントに配賦せず調整額で一括処理)

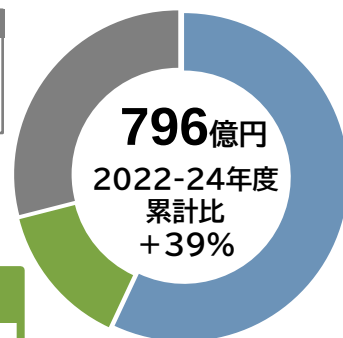
*2: 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

機能性材料、農業化学品へ経営資源を集中投下し、利益を最大化

セグメント別 設備投資

2025-27年度累計(中計)

その他
化学品130億円
ヘルスケア19億円
その他 81億円



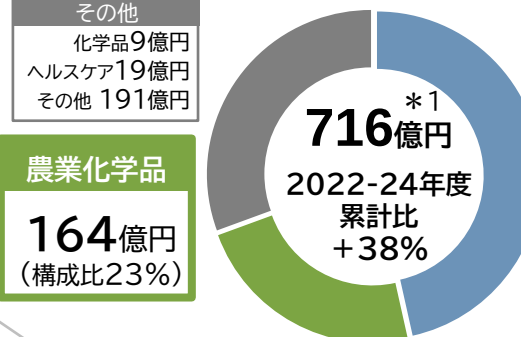
機能性材料
454億円
(構成比57%)

農業化学品
112億円
(構成比14%)

セグメント別 研究開発費

2025-27年度累計(中計)

その他
化学品9億円
ヘルスケア19億円
その他 191億円



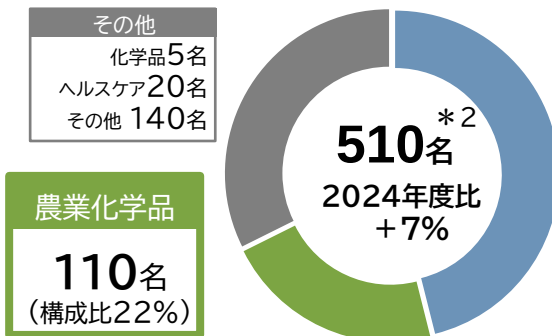
機能性材料
333億円
(構成比47%)

農業化学品
164億円
(構成比23%)

セグメント別 研究所人員^{*2}

2027年度中計

その他
化学品5名
ヘルスケア20名
その他 140名



機能性材料
235名
(構成比46%)

農業化学品
110名
(構成比22%)

*1: 2025年度より企画本部の一部経費を研究開発費(その他セグメント)に含む。

* 2: 総合職の概数

	(億円)		(億円)		(億円)		(人)	
	設備投資		減価償却費		研究開発費*1		研究所人員*2	
	2022-24年度 累計(実績)*4	2025-27年度 累計(中計)*5	2022-24年度 累計(実績)	2025-27年度 累計(中計)	2022-24年度 累計(実績)	2025-27年度 累計(中計)	2024年度 実績	2027年度 中計
化学品	128	130	81	105	9	9	5	5
機能性材料	227	454	172	244	241	333	200	235
農業化学品	151	112	91	109	131	164	105	110
ヘルスケア	15	19	12	17	14	19	15	20
その他*3	51	81	36	55	122	191	150	140
合計	572	796	392	530	517	716	475	510

2025-27年度 主要な設備投資(億円)

機能性材料: 半導体工場設備・機器 148、半導体研究設備・機器 84、無機コロイド工場設備・機器 26

その他: DX関連投資 22

*1: 2025年度より企画本部の一部経費を研究開発費(その他セグメント)に含む。

*2: 総合職の概数 *3: 企画本部、卸売、その他、調整額 *4: キャッシュ・フローベース *5: 稼働開始ベース

主要 次世代材料・新剤 売上高*1

2027年度中計

2030年度 イメージ

		10億円未満	10億円以上	合計*4
化学品	●ファインケミカル	FO(新グレード)		6億円
		スターファイン		
機能性材料	●ディスプレイ	ハードコート材		113億円
		調光フィルム		
		透明PI		
		光VA		
		次世代EL材料		
	●半導体		三次元実装材料	
			EUV材料	
	●無機	新規オルガノシリカゾル		
		高屈折材料		
	●その他	CIS*2関連		
農業化学品		NC-520(殺虫剤)	ベルダー	96億円
		NC-656(除草剤)	ダイセン*3	
			クインテック*3	
ヘルスケア	●ファインテック	新規原薬	エルデカルシトール	24億円
		ペプチド受託		

		10億円未満	10億円以上	30億円以上
		FO(新グレード)		
		スターファイン		
		ハードコート材		次世代EL材料
		調光フィルム		
		透明PI		
		光VA		
				三次元実装材料
		新規オルガノシリカゾル		EUV材料
		高屈折材料		
		CIS*2関連		
			クインテック*3	ベルダー
			NC-520(殺虫剤)	
		新規原薬	エルデカルシトール	ダイセン*3
			ペプチド受託	

合計239億円

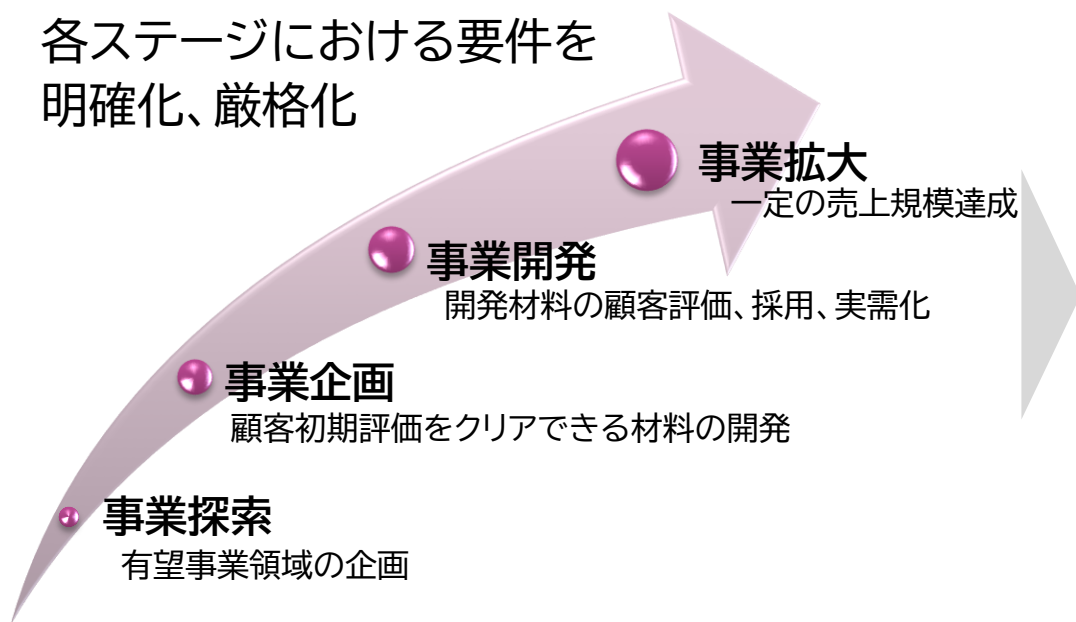
*1: 2019年度以降に販売開始の製品等(サンプル出荷含む)

*2: CIS(CMOS Image Sensor,シーモスイメージセンサ) *3: 他社からの買収剤 *4: 記載の主要製品等以外含む

Go/Stopの迅速化、組織再編によるターゲットの明確化により、選択と集中を加速

Go/Stopの迅速化

各ステージにおける要件を
明確化、厳格化



ターゲットの明確化

2025/4/1
企画本部組織改編で新設

SA*1事業化グループ

光配線材料開発グループ

放熱材料開発グループ

I*材料開発グループ

新領域事業企画グループ

変更無し

研究統括部

ハルシア企画部

アマルシア企画グループ

PSC*2材料開発チーム

水素I*材料開発チーム

次世代電池材料開発チーム

新製品売上高*3

2030年度 イメージ

	10億円未満	10億円以上	30億円以上
企画本部	ライフサイエンス	情報通信	環境エネルギー

*1:SA(Slurry Additives, スラリー添加剤) *2:PSC(Perovskite Solar Cells, ペロブスカイト太陽電池)

*3: 2019年度以降に販売開始の製品等(サンプル出荷含む)

環境エネルギー

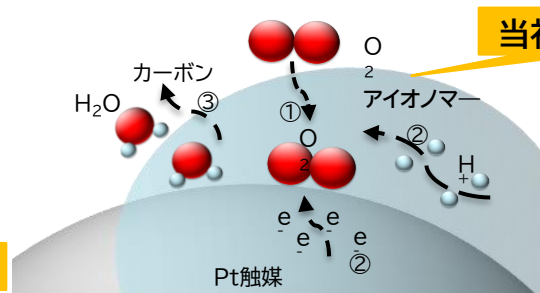
LiB用スラリー添加剤



活物質、バインダー
導電材などの
混合スラリー

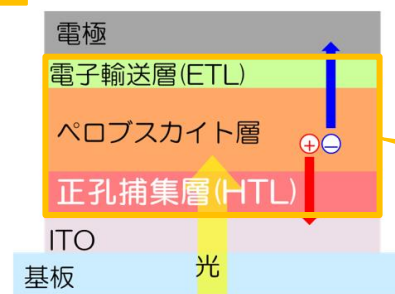
当社ターゲット

水素エネルギー-材料



当社ターゲット

ペロブスカイト太陽電池用材料



当社ターゲット

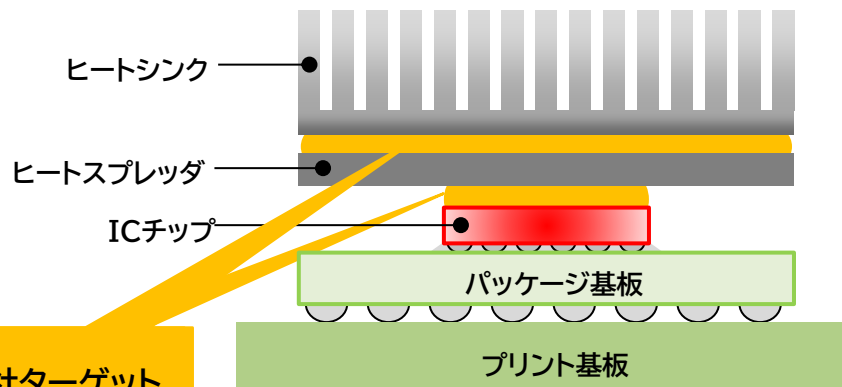
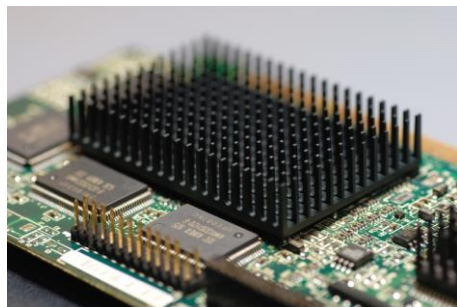
- 当社材料: スラリー添加剤
- 用途: 電池特性及び、製造効率向上

- 当社材料: 水素イオン伝導性ポリマー (アイオノマー)
- 用途: 水の電気分解、燃料電池の高効率化 PFASフリー

- 当社材料: 発電層周辺部材
- 用途: 太陽電池の耐久性向上

情報通信

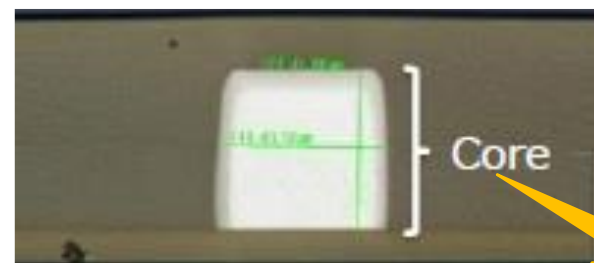
放熱材料



当社ターゲット

- 当社材料:液体金属複合材料
- 用途:ICチップと放熱体間の熱抵抗の低減

光配線材料



Clad

当社ターゲット

- 当社材料:光導波路用材料
- 用途:コア-クラッドの屈折率の最適化による挿入損失の低減

ライフサイエンス

創薬



- 当社材料:核酸医薬
- 用途:アンチセンス医薬品、siRNA医薬品等
 - 独自の修飾核酸MCEを活用し、自社創薬に加え、複数の製薬会社やアカデミアと共同創薬を実施中

再生医療

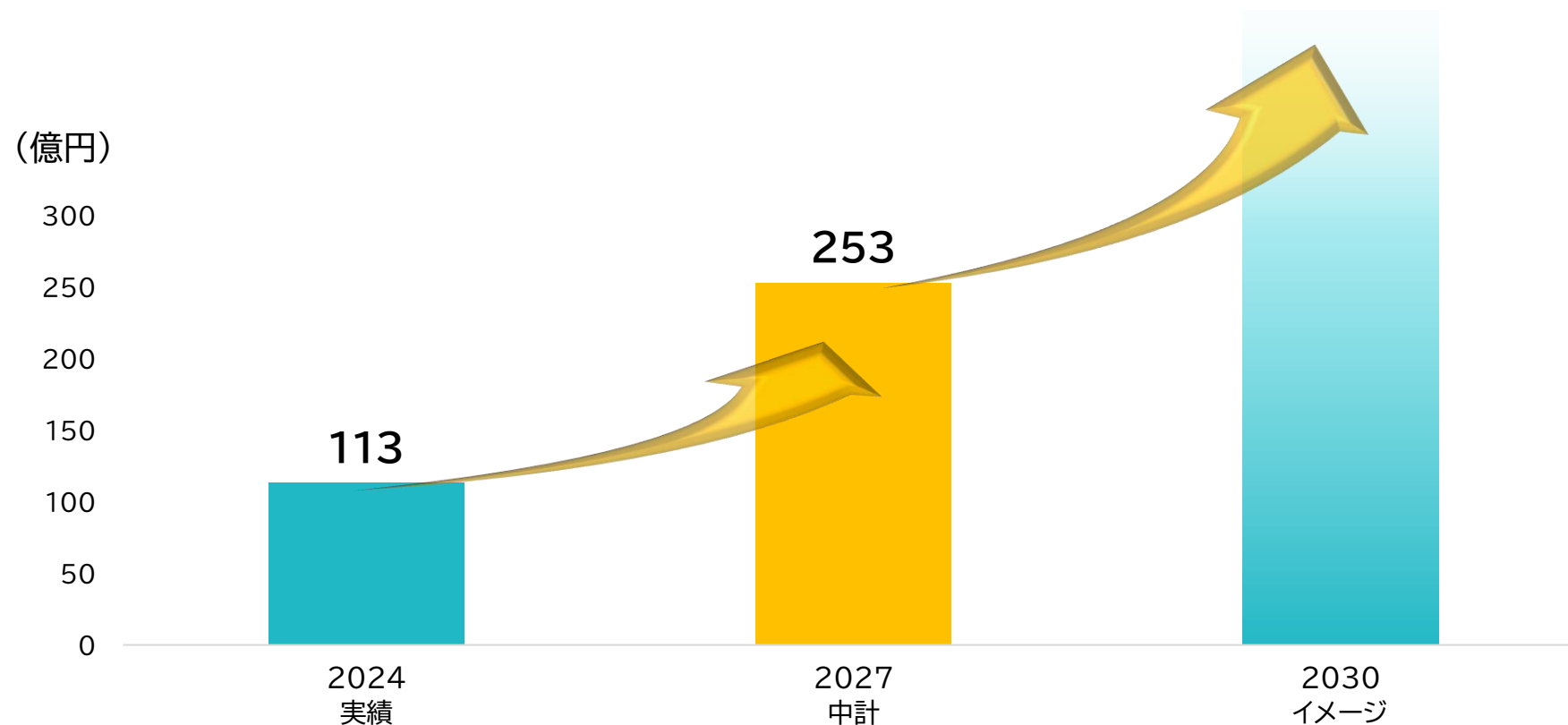
- 当社材料:FCeM[®](細胞培養材料)
- 用途:接着細胞の浮遊・分散培養の足場材
 - 培養、分注、保存、輸送等のプロセスに貢献



- 当社材料:prevelex[®]
- 用途:生体物質付着防止材料
 - 親水性のコーティング材
 - スフェロイド形成や細胞回収等のプロセスに貢献

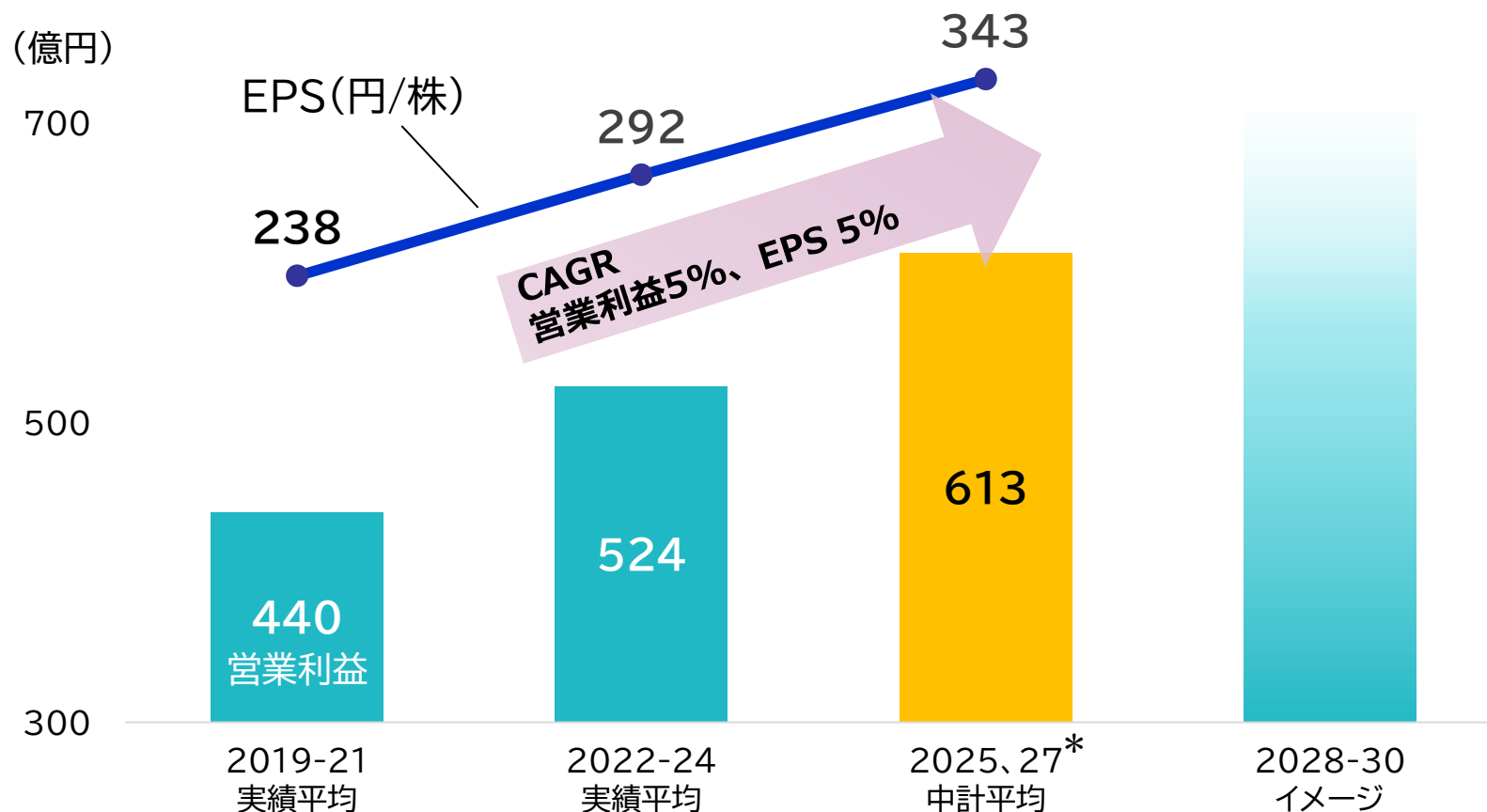
次の成長ドライバーとなる製品を開発

次世代材料・新剤、新製品 売上高



Stage IIの3年間に於いて、持続的な成長、安定収益の礎を築く
(2025、27年度平均* CAGR(2022-24年度平均比): 営業利益 5%、EPS 5%)

営業利益・EPS



*: 2025年度、2027年度の2期単純平均

事業基盤の強化 -方針と施策-

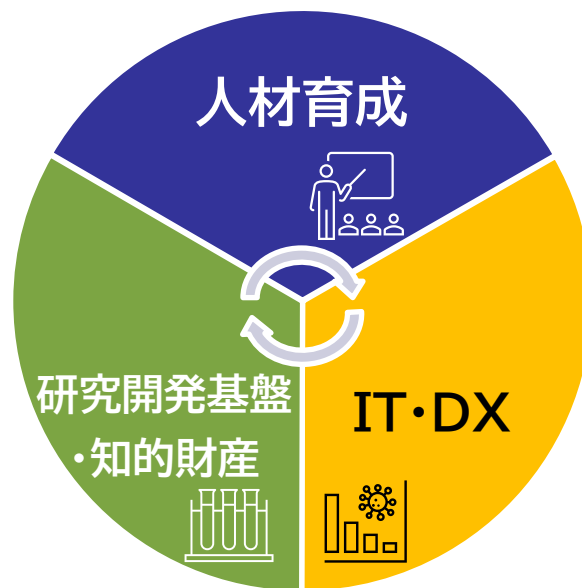
グループ全体の持続的な成長を支える事業基盤を強化

ガバナンス・コンプライアンス・サステナビリティ

- ・ガバナンス向上およびコンプライアンス体制強化
- ・レスポンス・ケア活動徹底
- ・品質保証体制強化

人材育成

- ・経営者・マネージャー層強化
- ・グローバル人材、DX人材およびデータサイエンティスト育成
- ・キャリア開発支援、タレントマネジメント強化

ガバナンス・コンプライアンス
・サステナビリティ

研究開発基盤・知的財産

- ・半導体材料研究2拠点化
- ・最先端技術活用による解析基盤強化
- ・Product Lifecycle Management システム導入
- ・IPランドスケープによる事業支援

IT・DX

- ・デジタル基盤拡充
- ・セキュリティツール導入
- ・インフォマティクスの素材・材料探索への活用

2027年度 非財務指標目標

当社マテリアリティ

日産化学サステナブル
アジェンダ社会課題解決に貢献する製品・
サービスの全売上に占める割合**60% 以上**(55%以上維持より上方修正)
(2024年度実績 55%以上維持)

人材の確保・育成

人材育成に関する社員意識調査
肯定回答率**65% 以上**

(2024年度実績 60%)

ダイバーシティ推進

研究所女性総合職比率

18%以上

(2024年度実績 18.5%)

GHG排出量削減目標

2018年度比

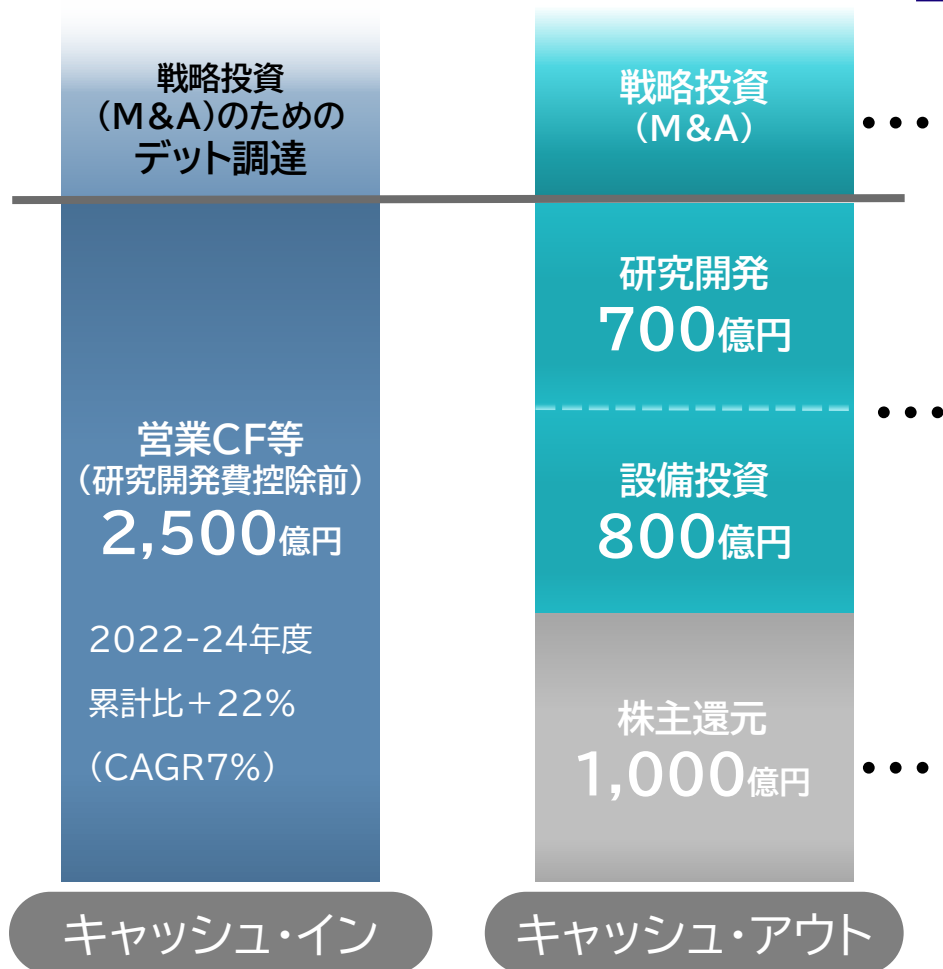
30%以上削減

(2024年度暫定値 22%削減)

着実なCF創出、持続的な企業価値向上に向けた戦略的キャピタルアロケーション

2025－27年度累計(概算)

配分の考え方



- 戦略投資:
 - デット調達
 - 一定の財務規律を維持(外部格付維持)
- 持続的な成長に向けた集中投資:
 - 次の成長ドライバーとなる製品を開発
 - 機能性材料、農業化学品へ経営資源を集中投下し、利益を最大化
 - 2022-24年度累計比:+37%(CAGR 11%)
- 高い株主還元方針を維持:
 - 総還元性向75%以上



Nissan Chemical
CORPORATION

未来のための、はじめてをつくる。

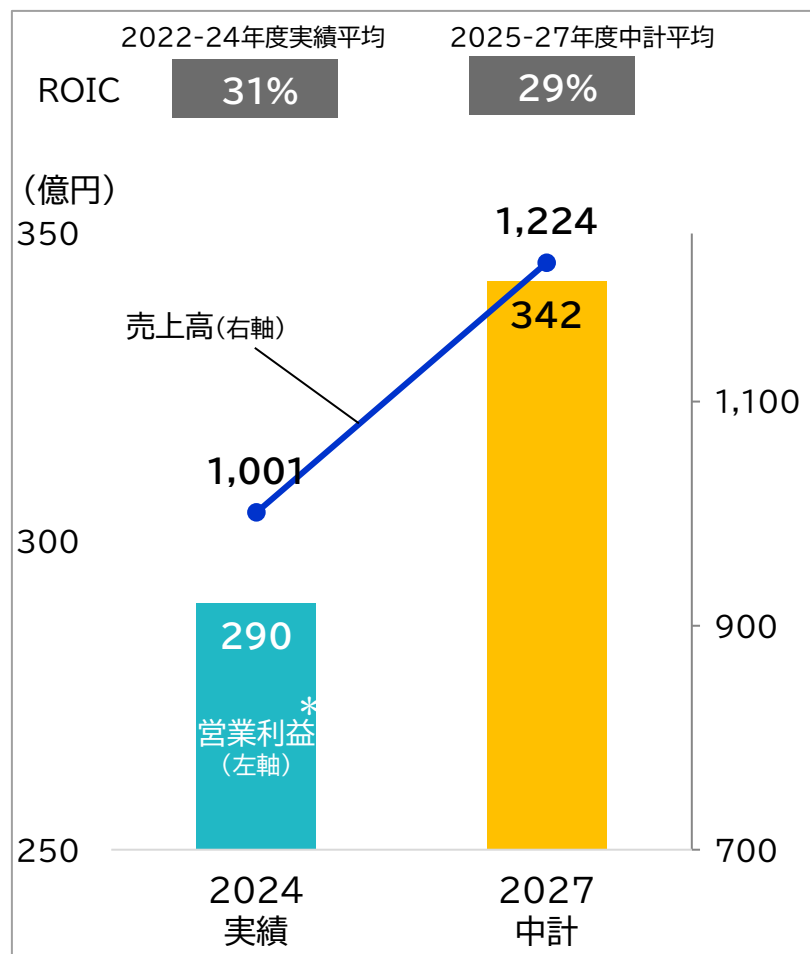
中期経営計画 「Vista2027 Stage II」 セグメント別方針・施策

説明者 松岡健(取締役 常務執行役員)

2025年5月15日

半導体材料、無機コロイド材料のシェア維持・拡大 & 資源を集中投下し、次世代材料の開発を加速

損益、ROIC



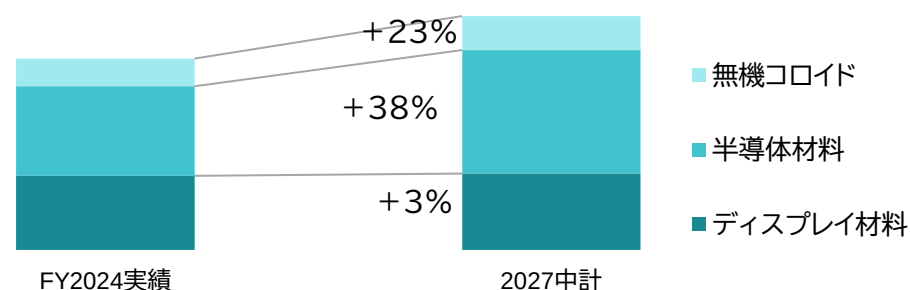
方針・施策

- 半導体材料に資源を集中投下、シェア維持・拡大
- ディ스플레이材料のシェア維持、次世代材料の投入
- スノーテックス(電材向け)の増販
- M&Aなどを活用し、自前主義から脱却

次世代材料

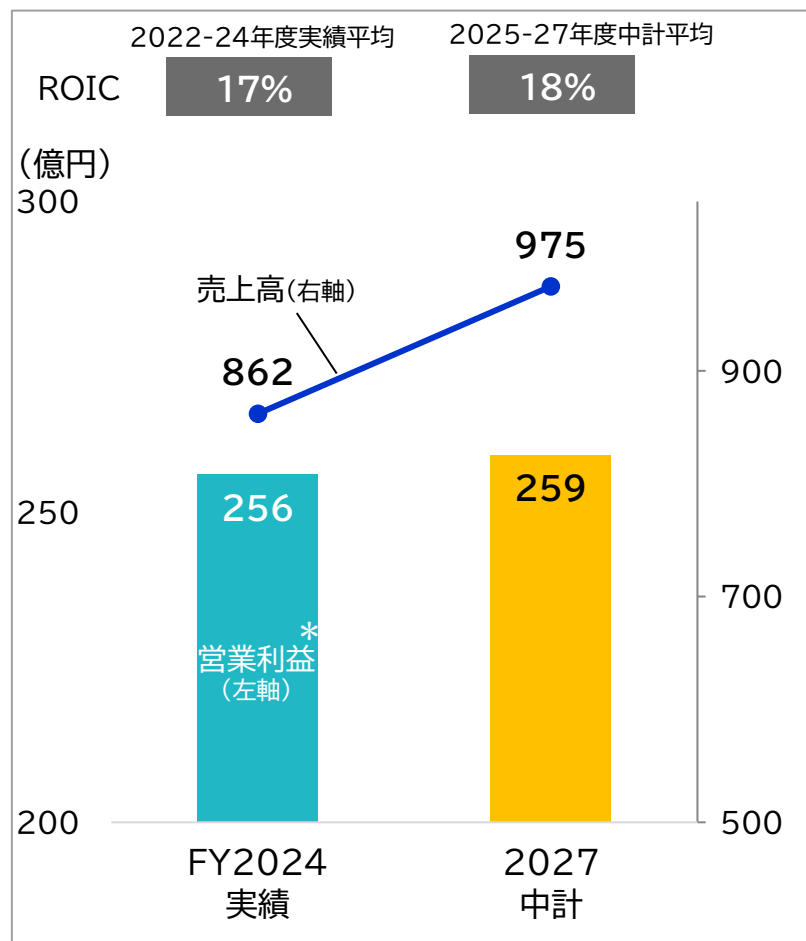
- 半導体新規実装材料、EUV材料の開発
- 次世代EL材料の開発
- 新規オルガノシリカゾルの開発

サブセグメント 売上高



農薬は、国内市場シェアNo.1堅持、海外市場への拡販 & 資源を集中投下し、新剤、新規動物薬、バイオ農薬の開発を加速

損益、ROIC



方針・施策

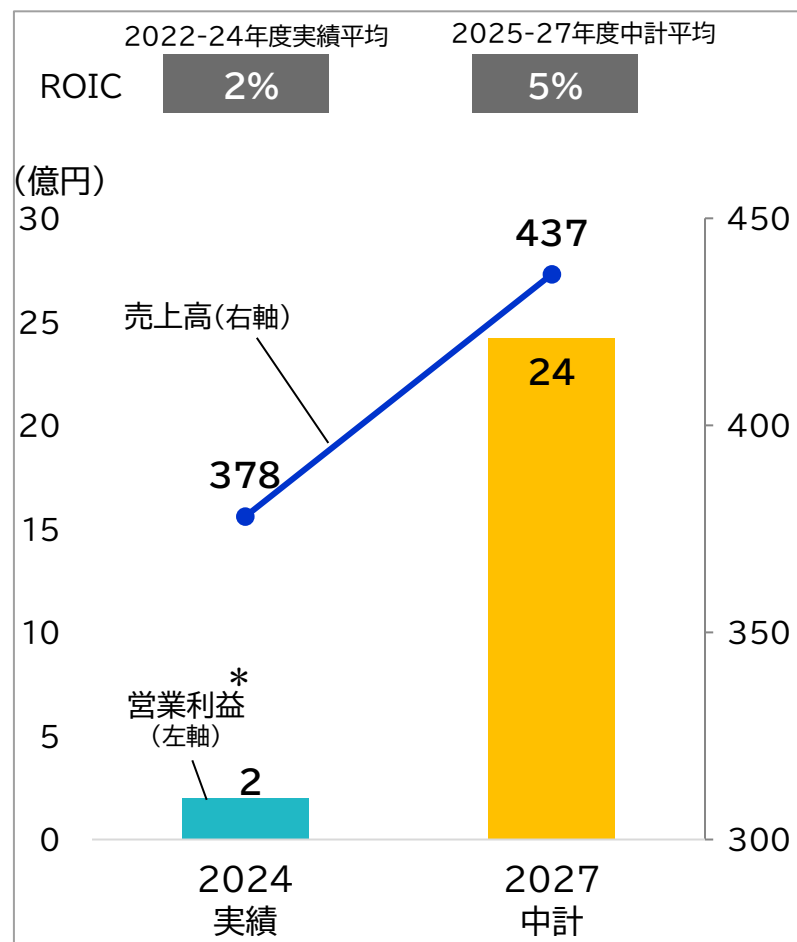
- 国内農薬は新剤投入によりシェアを維持・拡大し、市場シェアNo.1を堅持
- 海外農薬はエリアを拡大し拡販
- 動物薬原薬の安定供給
- M&Aを積極活用

新剤・新製品開発

- 新剤(除草剤ベルダー、除草剤NC-656、殺虫剤NC-520)開発、上市
- 新規動物薬の開発
- バイオ農薬・農業資材の開発
- パイプラインの拡充、早期ステージアップ

ア系製品の収益性改善、半導体向け高純度硫酸の増販により、営業利益率を向上

損益、ROIC



方針・施策

- アンモニア系製品の収益性改善(次ページ参照)
- 半導体需要増に伴う高純度硫酸の増販
- 原燃料価格、運賃等コストアップに対する販売価格の改定
- 2027年度において、営業利益率5%以上確保
- ファインオキシコール、スターファインの普及拡大、供給体制の確立

他事業とのシナジー

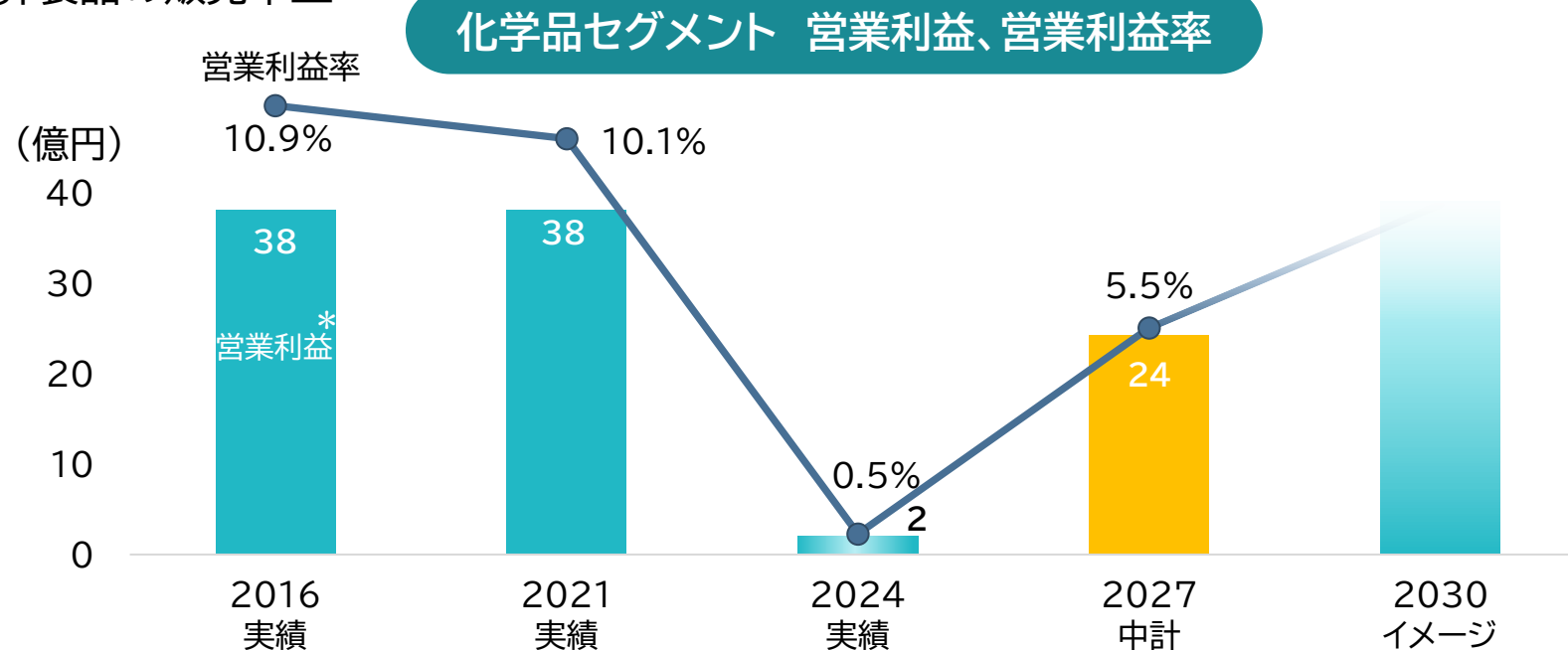
- 高度な技術・知識を必要とするア系プラントの運営は、生産技術人材の育成および当社グループ全体の製造プロセス差別化に貢献

2027年度以降、営業利益率5%以上の安定収益を確保する体制へ

方針・施策

2025－30年度累計で40～50億円の固定費・変動費減
(減損(2024年度 28億円計上済)による減価償却費減を含む)

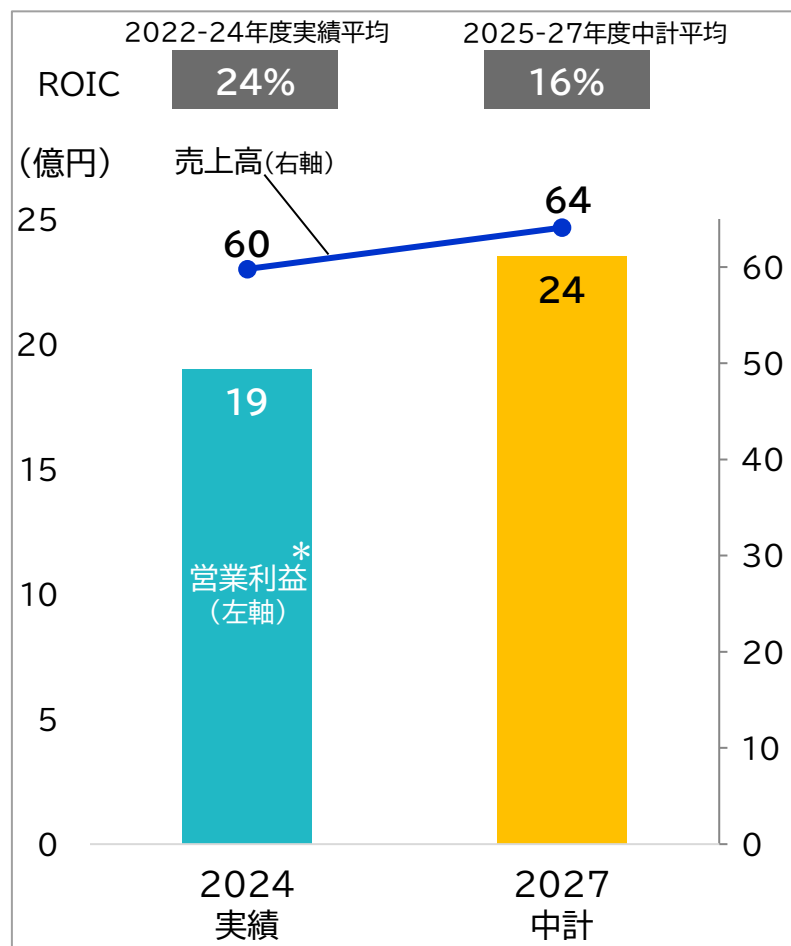
- 固定費圧縮、コスト削減策の継続実施
 - テピック製造設備の生産能力半減
 - 原料ソースの多様化
- 外部製造委託の活用による設備投資適正化
- 不採算製品の販売中止



*: 2025年度より新方式セグメント別営業利益(p10参照)

ジェネリック原薬の増販と開発推進、新規疼痛治療薬開発のステージアップ

損益、ROIC



方針・施策

- 既存製品の収益最大化
- 開発後期品・上市後製品への資源集中による早期収益化
- 新規顧客開拓に向けたグローバル営業の強化

新剤・新製品開発

- 高活性原薬およびペプチドの製造技術と開発力を強みに受託・原薬開発を強化
- 新規疼痛治療薬NIP-322の開発マイルストーン達成
- 核酸創薬のステージアップと提携拡大
- 生体物質付着防止材料の安定供給と用途拡大

Vista2027 Stage II(2025-27年度)

セグメント別損益

		2024年度 実績	2027年度 中計*1	2027年度 -2024年度	CAGR
(億円)		①	②	②-①	
化学品	売上高	378	437	+59	5%
	営業利益	2	24	+22	138%
機能性材料	売上高	1,001	1,224	+223	7%
	営業利益	290	342	+52	6%
農業化学品	売上高	862	975	+113	4%
	営業利益	256	259	+3	1%
ヘルスケア	売上高	60	64	+4	2%
	営業利益	19	24	+5	8%
その他*2	売上高	213	230	+17	3%
	営業利益	1	1	0	-
合計	売上高	2,514	2,930	+416	5%
	営業利益	568	650	+82	5%

*1: 2025年度より新方式セグメント別営業利益(p10参照)

*2: 企画本部、卸売、その他、調整額

本資料に記載されている将来の当社事業に関する見通しは、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、将来の当社業績を保証するものではありません。様々な不確実要素により、実際の業績は予測と大きく異なる結果になる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断で行われるようお願いいたします。

本説明資料に掲載されている全てのコンテンツは、日産化学株式会社が所有しています。

